

平成 29 年 5 月の解説（週間天気予報）

【5 月の天候状況】

上旬は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れた日が多くなりました。このため、北日本では旬降水量がかなり少なく、北日本太平洋側では旬間日照時間がかなり多くなりました。旬の後半は日本の南海上を低気圧が通過し、西日本を中心に雨が降った日がありました。空気の乾燥や強風によって、8 日には岩手県や宮城県などで山火事が発生しました。沖縄・奄美では、低気圧と高気圧が交互に通過し、天気は数日の周期で変化しました。

中旬は、前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨となり、12 日には鹿児島県中甕（なかこしき）で 1 時間に 100mm を超える降水量を観測するなど、大雨となった所がありました。またオホーツク海高気圧の影響により、北海道地方を中心に気温が低い日がありました。旬の後半は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れた日が多かったため気温が高くなり、20 日には北・東・西日本を中心に各地で真夏日となりました。沖縄・奄美では前線の影響で曇りや雨の日が多く、沖縄地方と奄美地方では 13 日ごろ（速報値）に梅雨入りしました。

下旬は、本州付近は移動性高気圧に覆われ、晴れて気温の高い日が多くなりました。特に 21 日は北・東日本を中心に各地で真夏日となり、群馬県館林では 35 を超え、全国で今年初めての猛暑日となりました。東日本では旬平均気温が平年よりも 2.4 高く、統計開始（1961 年）以来 5 月下旬として 1 位となる高温となりました。旬の中頃には日本付近を低気圧が通過して、全国的に曇りや雨となりました。旬の終わりには寒気を伴った低気圧が通過し、北・東日本を中心に雨が降りました。沖縄・奄美では、梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月平均気温は、北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美では平年並でした。月降水量は、東日本と西日本日本海側でかなり少なく、北日本と西日本太平洋側で少なく、沖縄・奄美では平年並でした。月間日照時間は、東日本日本海側と西日本でかなり多く、北日本と東日本太平洋側で多く、沖縄・奄美では平年並でした。

【5 月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値（注）より 7 ポイント高い 78%で、すべての地方で例年値以上となり、特に四国、九州北部、九州南部の各地方では例年値より 13～17 ポイント高くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.3 小さい 2.5 でした。各地方の予報誤差は、沖縄地方を除くすべての地方で例年より小さく、特に北陸、近畿、中国、四国の各地方では例年値よりも 0.5～0.7 小さくなりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年値より 0.2 小さい 1.8 で、すべての地方で例年値以下となり、関東甲信地方では例年値よりも 0.5 小さくなりました。

（注）例年値は気象庁 H P（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【7 月の週間天気予報の利用にあたって】

平年では、7 月の中旬から下旬にかけて九州から東北にかけて梅雨明けとなります。しかし、梅雨明けの時期は年によって違いがあり、梅雨明けが遅れると、日照不足とともに長雨や低温により農作物の生育に影響が及ぶことがあります。週間予報で曇りや雨の日が予想され平年より気温の低い日が続く場合には、早めの対策を取るなど、向こう一週間の天気や気温の傾向を農作物管理等に活用してください。